

みちしるべ

みずからのために道しるべを置きみずからのために標柱をたてよ (エレミヤ31:21)

人になれ 奉仕せよ

聖句： わたしはぶどうの木 あなたがたはその枝である (ヨハネによる福音書 15:5)

保育目標：	0歳児	・友だちを身近に感じて親しみを持つ。冬の遊びを楽しむ。
	1歳児	・神さまに自分から祈ろうとする。寒さの中、身体をいっぱい使って遊ぶ。
	2歳児	・友だちの思いに気づきながら、つながりを深めていく。
	3歳児	・気の合う友だちを誘って遊び、気持ちに通じることを喜ぶ。ルールのある遊びを楽しむ。
	4歳児	・友だちと遊びの中で、共に喜び合う経験を重ねていく。
	5歳児	・一人ひとり違っていることを認め合い、生活の中で共に過ごす喜びを感じる。

お日さまが顔を出さないと深々と冷える日々がやってきました。冬の本格的な寒さの足音が聴こえ、「寒いね。寒いね」と、肩をすぼめながら子どもたちと会話することが多くなりました。寒さに負けず、鬼ごっこや缶蹴り、大縄跳びを楽しんで身体も心も動かし健康を保ちたいものです。

先日じ組でおやつ時間に一緒に私も座っていると、おやつを食べ終わったS君がふとやってきて、私の膝の上に体を滑り込ませてきました。何とも不安げな顔で、「ママがいい」とつぶやくS君。それまでの姿が分からなかったため、膝に乗せたまま様子を伺っていると、何か嫌な出来事があったわけではなく、ふと不安な気持ちがよぎったようでした。そこに寄ってきた友達が鞆を置きに行こうと誘ったり次の遊びに誘ったりしましたが、S君の顔は晴れません。私の隣に座っていた子が食べ終わったタイミングで一緒にS君の手をとり、誘いかけ、遊びの場へ動きました。その後すっと手を離し、おやつ時からずっと誘い続けてくれていた友達と園庭に出かけ、ふと目を向けると、からっとした表情で追いかけてこしていたS君でした。これまで登園時におうちの方と離れる時、不安な様子を表していたので、「私でもいいかしら？」と尋ねて、朝のひとときを一緒に過ごす事はありませんでしたが、身支度を整えていざ園生活が始まるとほとんど私のところに寄り道をする事はありませんでした。けれど、このおやつ日の関わりを境に、ふとした時やすれ違ったときにそっと体を寄せてきたり、遊んでいる手を止めて話をしたり、お迎えの時間を気にするような様子があったりと、「何かよぎる気持ちがある」ことを感じるようになりました。1日の生活を覗いてみると、ほとんどの時間は、友達や担任の先生と笑顔で笑い合っています。その反面、ふとしたときに人心地つきたくなったり、いつもと違う人に寄りかかりたくなったりすることがあることを思わせられました。

この時期ならではの姿ですね。きっとS君だけでなく、どの人も3学期に入り、友達との世界が本格的に楽しくなり、自分の力でいろいろな世界に一步踏み出そうとする「今」。周りが見えるようになり、周囲で起こる出来事に気がつくようになり、今までよりもっといろいろな状況や情報をキャッチするようになるからこそ、(大きな不安や心配があるのではないけれども)ふとしたときに人心地つきたくなることもあるのだと思います。どの学年の子どもたちも新たな一步を踏み出す4月からの生活が豊かになるように「今」を十分に満喫して過ごしてほしいと心から願っています。

大人は先を見て思いや願いを持ち、その上で(もうすぐ〇〇組だね、と)今の子どもの姿に力や思いを注いでしまうこともしばしばです。子どもたちは「今」を生き楽しむために精一杯力を使おうとしています。周囲との関係が充実してくる今だからこそ、この「今」を目一杯味わうことが次へのステップに繋がると考えています。私も新しい生活の準備に心とらわれてしまいそうになりますが、「今」を存分に愉しみ、子どもとともに希望をもって歩める者でありたいと思います。新しい生活が来たら、その時に力を発揮できるよう、今が充実するチャンスの時間だと考えて、それぞれが力を養い、蓄えてほしいと願っています。少し先が見え始めるこの時期、今までよりさらに、またいつでも寄り道できる膝を準備しながら保育に励もうと思います。

神さまはいつもどんな時でも、またどんな私たちでも見守り、知恵と力を与えてくれます。ひとつの区切りが見え始めるこの時期の不安を神さまに委ねつつ、一人ひとりの力になるよう祈り続けます。

幼児主任 千葉 綾子